

# 第1学年2組 保健体育科（体育分野） 学習構想案

日 時 令和 3年10月20日（水）第5校時  
 場 所 熊本大学教育学部附属中学校体育館  
 指導者 教 諭 長浦 卓也

## 1 単元構想

単元名	球技「プレルボール」		
単元の目標	<p>(1) 運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。                  プレルボールでは、ボールの操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場をめぐる攻防をすることができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレーを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p>		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>【知識】</p> <p>① 球技には集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて言ったり書いたりしている。</p> <p>② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③ 球技はそれぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【技能】</p> <p>オンザボールの動き</p> <p>① ボールを打つときはボールの中心付近をしっかりと面で捉えることができる。</p> <p>② 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。</p> <p>③ アタックでは肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。</p> <p>オフザボールの動き</p> <p>④ 相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。</p> <p>⑤ プレーを開始するときは各ポジションの定位置に戻るることができる。</p>	<p>① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>② 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレーなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>③ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>④ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p>	<p>① 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>② マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレーを守ろうとしている。</p> <p>③ 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。</p> <p>④ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p>
<b>単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）</b>			
仲間と協力し、技能を高めながら、空いた空間をめぐる攻防を楽しむことで、ネット型球技に共通する動きなどを理解し、今後行うであろうバレーボールやスポーツ等に多様な関わり方をする生徒。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	本単元で働かせる見方・考え方		
「プレルボール」のゲームをより楽しく、上手く、面白くするためには、どう動き、協力すればよいか考えよう。	ゲームがより楽しく、上手くなるとともに体力の向上に果たす役割に着目し、様々な技能を「する」、仲間の動きを「みる」、チームの仲間と協力したりして「支える」チームの良さや課題を見つけ、アドバイスする「教える」といった球技との関わり方と関連づけること。		

指導計画と評価計画（ 7 時間取扱い 本時 5 / 7 ）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	<b>【プレルボールの学習の見通しを持つ】</b> ○オリエンテーション（学習内容の確認） ○w-up のスキルアップ練習について ○試しのゲーム（特性をつかむ：楽しさ・難しさ） ※ゲームの方法は「プレルラリーゲーム」で行う。	<b>【知①】</b> （学習カード） <b>【態①】</b> （観察）
	2	<b>【ゲームを楽しみながら作戦や技能を高めよう】</b> <b>オンザボールの動き</b> ○ボールを打つときはボールの中心付近を面で捉えること。 ○味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと。 <b>オフザボールの動き</b> ○相手の打球に備えた準備姿勢をとること。 ※ゲームの方法は「プレルラリーゲーム」で行う。	<b>【知②】</b> （学習カード） <b>【技①②】</b> （観察） ★ボールの中心付近をしっかりと面で捉えることができる。 <b>【技④】</b> （観察） ★相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 <b>【思④】</b> （観察） <b>【態③】</b> （観察） ★作戦についての話し合いに関わり、意見を出しながら他者に伝えることができる。
二	2	<b>【新たなゲームの方法で作戦や技能を高めよう】</b> <b>オンザボールの動き</b> ○アタックでは肩より高い位置からボールを打ち込むこと。 <b>オフザボールの動き</b> ○プレーを開始するときは各ポジションの定位置に戻ることに。 ※ゲームの方法は「プレルアタックゲーム」で行う。	<b>【技③⑤】</b> （観察） ★肩より高い位置でアタックを打ち込むことができる。 ★守備に備えて自分の定位置に戻ることができる。 <b>【知③】</b> （学習カード）
	2	<b>【Pリーグ：学習したことをリーグ戦で生かそう】</b> ○高めた技能やチームの作戦を生かしながらリーグ戦を行う。 ※ゲームの方法は「プレルアタックゲーム」で行う。	<b>【思②③】</b> （観察・学習カード） ★練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレーなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 <b>【態②④】</b> （観察）

## 2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）		
中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育 第2 各学年の目標及び内容 <b>【体育分野 第1学年及び第2学年 2 内容 E 球技】</b> <b>球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</b> (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技術や仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにすること。ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすること。 (3) 球技の学習に積極的に取り組み、作戦などについての話し合いに参加することや一人一人の違いに応じたプレーなどを認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ること。		
教材・題材の価値		
プレルボール（Prellball）はドイツ発祥のスポーツで低いネットで隔てられた2つのコートで、常にボールをワンバウンドさせながら、パスをしたり相手コートに返球したりしてラリーを続け、勝敗を競うネット型スポーツである。個人的技能が比較的容易であるため、誰でも短時間でゲームの楽しさを味わうことができる。またロープ（ネット）でコートが区切られているため、攻防の際に、意図された戦術が実現されやすい。中学校1・2年生のネット型のねらいとしては、ラリー中心のゲーム展開の中でボール操作や定位置に戻る動きなどのネット型に共通する動きを身につけていきたいという点からも、この種目は効果的ではないかと考える。さらに、ルール・コートサイズ・ネットの高さなどは、学年や技能レベルに応じて段階的に組み立てることができ、系統性を持たせながら、集団的に達成する喜びも与えることができる。以上から、将来的にはバレーボールにもつながるネット型球技に共通する動きやチームでの役割行動などの連携プレーを学ぶことができる教材の一つであると考えられる。		
本単元における系統		
<b>小学校第5学年及び第6学年</b> <b>E ボール運動 ネット型</b>	<b>中学校 第1・2学年</b> <b>E 球技 ネット型 プレルボール</b>	<b>中学校 第3学年</b> <b>E 球技 ネット型 バレーボール</b>

生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態） 1年2組 40名

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

6月に学級レクリエーションの際、「サークルブレル遊び」を4人組で行った。小学校時代にソフトバレーボールを学んだ生徒は35名と多くいるが、ブレルボールを学んだ生徒は1人もいない。

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容（A：とともしている B：普通・時々している C：あまりしていない）

- ① 保健体育の授業で、意欲的に学習に取り組もうとしているか。A：27人 B：13人
- ② 課題を解決するために仲間と協力して考えながら解決しようとしているか。A：30人 B：10人
- ③ 考えたことを話し合いで仲間に伝えたり、アドバイスしたりしているか。A：26人 B：14人

■考察

（資質・能力に関して）技能の状況に関しては、ソフトバレーボールの経験はあるが、おそらく習熟に大きな差があり、ボールを持っているときの動きを高める時間を十分に確保しながらオフザボールの動きも学んでいく学習が必要である。また、体力テストの結果を考察すると、全体的に各体力要素の値は低い。しかし、体育の授業に意欲的に取り組む生徒は多く、自己やチームの課題を考えながら工夫して練習をする生徒も多い。

（学びに関して）主体的・対話的で深い学びの視点から、学びの状況を見ると、意欲的に粘り強く活動をしようとする生徒は多い。仲間と考えを交流したり、技能について具体的にアドバイスしたりすることに課題があることから、課題の解決の場面を工夫するとともに、考え（作戦）を交流させながら技能の高まりにつながるような単元計画の工夫が必要である。

### 3 指導に当たっての留意点

#### (1) 熊本市研究主題

「自ら運動の喜びや楽しさを求め生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ保健・体育学習の在り方」  
～主体的・対話的で深い学びを図る指導の工夫～

#### (2) 仮説

- 教材の開発や場面設定の工夫、ICTの効果的活用を行えば、対話活動が活性化し、生徒が運動の楽しさを味わいながら進んで運動に親しむことができるだろう。
- 生徒の主体的活動を狙った課題提示や取り組みの工夫を行えば、生徒同士で学びを深めながら主体的に課題解決をし、できる・わかる喜びを味わうことができるだろう。

#### (3) 留意点

- 指導と評価の一体化
  - ・単元終了時の生徒の姿や単元を通じた学習課題を共有して学習を進めることで、生徒の主体的な学習につなげる。
- 効果的なICTの活用
  - ・ゲーム中のプレーする姿を撮影し、話し合いの際に映像を役立てながら活動させる。
  - ・授業の中で、良い動きをしていたグループの動画を紹介する時間を設ける。
- 主体的活動を重視した取り組み
  - ・毎時間のスキルアップ練習を設定することで、技能における「オンザボール」と「オフザボール」の動き作りの向上を図る。
- 対話を促すための場面設定の工夫
  - ・技能についての言葉を「共通言語」として共有し、生徒らのアドバイスの言葉かけのキーワードとなるようにする。

「人権が尊重される授業づくりの視点から」

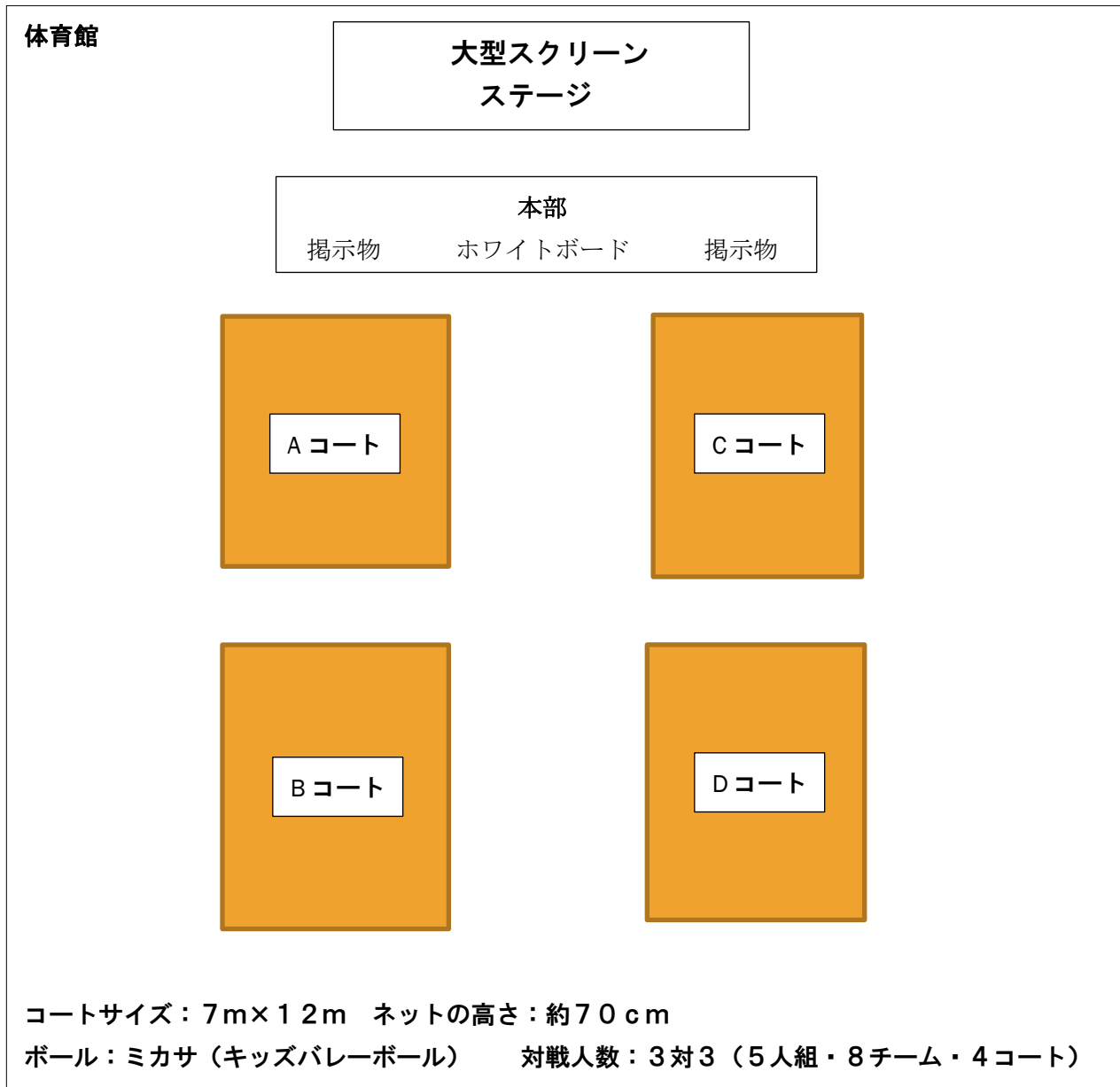
- 互いの動きや考えたことなどを尊重し合い、共同して課題解決に向かおうとする。
- 話し手がどのような思いから発信しているのか、相手の立場に立って考えることができる。

4 本時の学習（5時間目）

- (1) 目標 守備の時に、それぞれの適切な位置に戻って攻撃に備えることができる。（技能）
- (2) 展開

過程	時間	学習形態	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10	一斉・グループ	<p><b>1 課題をつかむ</b></p> <p>① 健康観察</p> <p>② 前時の学習の確認と今日の学習の流れを確認する。</p> <p>③ スキルアップ練習 ○サークルプレル ○アタック&amp;キャッチ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>【めあて】 守備の時の大切な動きができるようになるろう。</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【学習課題】</b> 守備に備えるため、相手コートにボールがある時にはどのような動きをしたらよいのだろう。</p> </div>	<p>○健康状態を十分に把握する。</p> <p>○単元全体の学習課題やこれまで積み上げてきた、オンとオフの動きについて振り返る。</p> <p>○オンとオフの動きのスキルアップを目指し、動きのポイントを意識しながら行う。</p> <p>○技能におけるキーワードを皆で声かけしながら行うよう促す。</p> <p>○今回は、相手コートにボールがある時の自チームの動きについて必要なポイントを見つけさせる。</p> <p>○する人（プレーヤー）、みる人（観察者）、支える人（分析・撮影者）、教える人（アドバイザー）という関わり方を意識しながら活動するように促す。</p>
展開	35	グループ・一斉・グループ	<p><b>2 課題の解決に向けて活動する。</b></p> <p>① <u>3対3でのプレルアタックゲームⅠ</u> 10分間のゲームを行う。ゲームを進めながら学習課題の解決を図る為に話し合いを進めていく。 ◇攻撃後に移動したポジションから定位置に戻ろう。 ◇ボールや相手の動きを見て、予測しておこう。</p> <p>② チームでの話し合い・全体での確認 学習課題に対するチームでの考えを整理し、全体で意見を出し合う。 ◇定位置に戻ることの良さは・・・ ◇自分達の定位置とはどこなのか・・・</p> <p>③ <u>3対3でのプレルアタックゲームⅡ</u> 再度10分間のゲームを行う。ゲームⅠと全体共有で学んだことを実践する時間とする。 ◇確認した方法で定位置に戻って守備することができた。 ◇適切な位置にポジションをとることで、守りやすくなり攻撃につなげることができた。 ◇もっと守備における動きを考え、見つけてみよう。</p> <p>.....  <b>【期待される学びの姿】</b>          .....          ・仲間と一緒に練習やゲームの中で意見を出し合い協力しながら、守備の時の、大切な動きを考え、実践しようと粘り強く挑戦する姿          .....  <b>【到達していない生徒への手立て】</b>          .....          ○動くべきタイミングにサポートの声かけを促す。          ○ゲームを止め、動きを確認したり（フリーズ）、プレーしながらのアドバイスをしたり（シンクロ）などコーチングする。</p>	<p>○1チーム4人のメンバーで構成され、3人がプレーを行い、2人はみる・撮影する役割を担当しながらローテーションする。</p> <p>○みる人はゲームの観察や分析を主に行い、動画も適宜撮影する。</p> <p>○タイムアウト（30秒程度）を2回取って良い。</p> <p>○今回の学習課題だけでなく、守備における大切な動きは、教師側のコーチングで意識させる。</p> <p>○出された意見を認めながら、対話を重ねていくことで、学習課題に対する答えに気づかせる。</p> <p>○映像を使って説明に役立て、良いモデルとなる動きを効果的に示す。</p> <p>○ゲームⅡで意識してプレーするための「技能の基準」を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【具体の評価規準】【技⑤】</b></p> <p>プレーを開始するときは各ポジションの定位置に戻ることができる。（観察）</p> </div>
終末	5	一斉	<p><b>3 めあてに対する振り返りをする。</b></p> <p>① 今日の学習をまとめ、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【まとめ】</b> ゲームの中で、守備の時は自分のポジションの定位置に戻って動きを備えるとよい。</p> </div> <p>② 学習の振り返り</p> <p>③ 整理運動・片付け</p>	<p>○上手くいった時の場面を振り返りながら、新たな気づきがあれば発表させる。</p> <p>○次回からのゲーム内容の予告やチームワークにつながる良い発見等があれば意見を引き出す。</p> <p>○生徒の体調を確認し、安全に留意させる。</p>

## 5 場の設定



## 6 ICT の活用計画

1. 課題をつかむための動画の提示。
2. 課題解決に向け、ゲーム中の動きの撮影や作戦ボードとしての活用。
3. 全体共有のために、班内での考えをまとめ、全体に提示するためのタブレット端末の利用。
4. 学習の振り返りをするための動画の活用。

## 7 見方・考え方を働かせて、終末や次時以降の学習に生かす計画

1. プレルボールの学習を通して、様々な関わり方を体験することで、それぞれの役割の大切さや楽しさを実感しながら、味わせられるようにつなげたい。
2. 他種目や他領域でも、今回の授業で学んだ動きや見方・考え方を意識し、つなげながら考え・学ぶことで、新しい気づきを発見できるようになってほしい。